





図書館に設けられた「滝口さんコーナー」

## 祝 芥川賞

平成十三年卒業

滝口 悠生 さん

平成十三年卒業の滝口悠生さんが「死んでいない者」で第154回芥川賞を受賞しました。おめでとうございます。滝口さんは所高野球部出身。卒業後も周囲に流されることなく、自身の生き方を追求され、作家として活躍されています。校内でも図書館に「滝口さんコーナー」を設けたり、同窓会館に垂れ幕を下げて受賞を祝っています。ここでは朝日新聞の記事を転載させていただき、滝口さんの紹介とさせていただきます。

# O B 紹介 活躍する卒業生

朝日新聞2016年(平成28年)1月20日朝刊の「ひと」欄に掲載された記事を、朝日新聞社とご本人の了解を得て転載させていただきました。

### 「死んでいない者」で第154回芥川賞に決まった

たきぐち ゆうしょう  
**滝口 悠生 さん(33)**



行き先を決める書き方は、この作家の人生そのものだ。受賞作は大家族の通夜が舞台。故には、子が5人、孫が10人もいた。さらにはひ孫や親友など登場人物が多く、読んでいて誰が誰だか分からなくなる。「関係が自分で分からなくなる」。家系図を作つたくらいで、当時は、分からないと批判される不安もあつた。「でも見通しの良い道より、分からぬ道の方が面白い。本当は不安がない方が不安なんです」

高校時代、同級生は次々と進学を決めていた。でも自分は学ぶ目的が持てなかつた。「大勢と動く方が楽。でも、流されたくないかった」。卒業後は、アルバイト生活を選び、あちこち放浪もした。映

画「男はつらいよ」を愛し、シリーズ48作を5回ずつくらいは見ていた。寅さんの境遇に、近いものを感じたのかもしれません」。その頃、小説にも向き合いだし、言葉を使う「放浪」と感じたからだ。自在に時を行き来し、記憶をたどれる文学にひかれた。創作を志し、23歳になつて早稲田大に進んだ。遊びもせず思想や宗教を学び、これで十分と卒業前に中退。5年前にデビューした。思いのままに道を曲がる「迷い歩き」が好きだ。今も散歩中にアイデアが浮かぶ。「道ばたや足元を見つめているうちに思い浮かぶ場面や雰囲気が、自分の書こうとするものなのかなと思います」

文・高津祐典 写真・諫山卓弥

## 在校生支援プログラム

同窓会活動の新企画として、色々な分野で活躍されている同窓生をお招きして在校生対象に講演会や演奏・作品紹介などおこなっています。昨年度は日本芸術学部で数多くの映画を製作された松尾豪さんによるミニ講演会と学生介などおこなっています。

映画祭準グランプリ受賞作「アキスカゾク」の上映、国際的打楽器奏者として活躍している新野将之さんを招いての「講堂お別れコンサート」をおこないました。お一人による寄稿文を掲載させていただきます。

今後も継続発展させていきたいと考えていますので、候補になる方がいらっしゃったら同窓会校内係までご紹介ください。



同窓会館「希望の鐘」の垂れ幕

## 映画と所沢高校と それから

平成二十四年三月卒業

松尾 豪さん

今でも所沢高校での楽しかった日々をよく思い出します。「せっかく所沢高校に入学したのだから好きなことをたくさんやる。」単なるエネルギーの塊だった自分は、入学直後同級生の仲間を集めて映画を撮り始めました。機材などなく、ハンディカメラでショットを適当に重ねるだけの撮影だつたけど、確かに物語が出来ていく過程は感動的でした。

今でも忘れないのは高校2年時、所高祭での映画上映会です。多くのお客様が狭い教室に訪れ、スクリーンに映る自分たちの作った映画を見て笑つたり泣いたりしている。その光景を一番後ろから眺めていた時、なんとも形容しがたい感動が込み上げてきたのを覚えてます。どうやらこの瞬間にこの謎の感動の中毒になってしまったようです。それからというのも卒業までによりハイペースで映画を撮り、幸いなことに学生映画祭などで多くの賞をいただき、その後は日本大学映画学科に入学することができました。

大学入学後は、授業で本格的に映画を学びつつ、気の合う仲間たちと一緒に、その後は日本大学映画学科に入

自主制作映画をひたすら作り続けました。スマートフォンのみを使つて撮影した無予算映画から、プロが使つたような本格的な機材を用いた映画など、とにかくいろいろ制作しました。何より大学に入學して樂しかつたのは同じ志を持つ仲間たちと多くの時間を共にできることです。日常会話で行われる映画批評会など、他の学校にはないやりとりは至福の時間でした。

学外での活動では、大学三年生の時「映像作家を目指す学生たちにもっと多くの発表の場を」という思いから始まった「ところざわ学生映画祭」の立ち上げにも参加しました。一から始める映画祭はとても刺激的な体験で、日本大学、早稲田大学、立教大学といった学校の垣根を越えて協力し合い、それぞれの持ち味を生かしつつ企画を進めていきました。結果的に映画祭は一日で二百人以上の来場者が訪れる大成功で、出品していた自分の監督・脚本作品『アキスカヅク』も観客賞、準GPを受賞するという嬉しいこと尽くしの結果で終わりました。『百年続く映画祭にしよう』というスローガンのもと、ところざわ学生映画祭は今後も毎年所沢で開催する恒例行事になるので、注目しておいていただけると幸いであります。

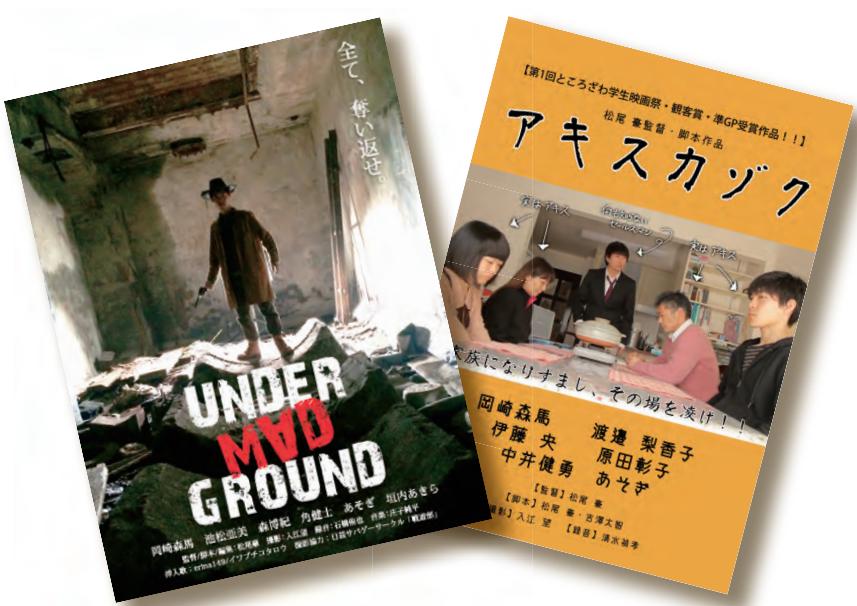
大学四年時は卒業制作『UNDER MWD GROUND』という西部劇の制作に全力を注ぎました。この作品は

偶然にも自分の作る五十本目の映画ということもあり、まさに集大成のようないい意気込みがありました。今までの情熱、ノウハウ、人脈、全てを一本にぶち込んだ。何より大学に入學して樂しかつたのは同じ志を持つ仲間たちと多くの時間を共にできることです。日常会話で行われる映画批評会など、他の学校にはないやりとりは至福の時間でした。

自主制作映画をひたすら作り続けました。スマートフォンのみを使つて撮影した無予算映画から、プロが使つたような本格的な機材を用いた映画など、とにかくいろいろ制作しました。何より大学に入學して樂しかつたのは同じ志を持つ仲間たちと多くの時間を共にできることです。日常会話で行われる映画批評会など、他の学校にはないやりとりは至福の時間でした。

撮影の時期をうかがっているところです。名前が世に出るその日まで、応援していただけると幸いです。所沢高校の自由を尊重する校風は、自主的に行動を起こすにはこの上ない環境です。多くの後輩にとって所沢高校での日々が自分が味わったように、素敵なかつたと思つています。完成した作品は現在各映画祭に出品中で、嬉しいことに続々と本選への選出が決まっており上映機会が増えている状態です。この作品を観たいという方がいらっしゃつたら是非インターネットなどで作品名で検索してみてください。ただ、これは思っています。また、自主上映をしたいという方などいらっしゃつてしまふらご連絡ください。

現在自分は日本大学を卒業し、社会人として働きつつ、お金と時間を作り自主制作映画を作り続ける道を選びました。就職した会社も自分の活動を応援してくれていて、楽しい日々を送っています。



松尾作品映画ポスター

## 打楽器への道

平成十八年三月卒業

新野 将之さん

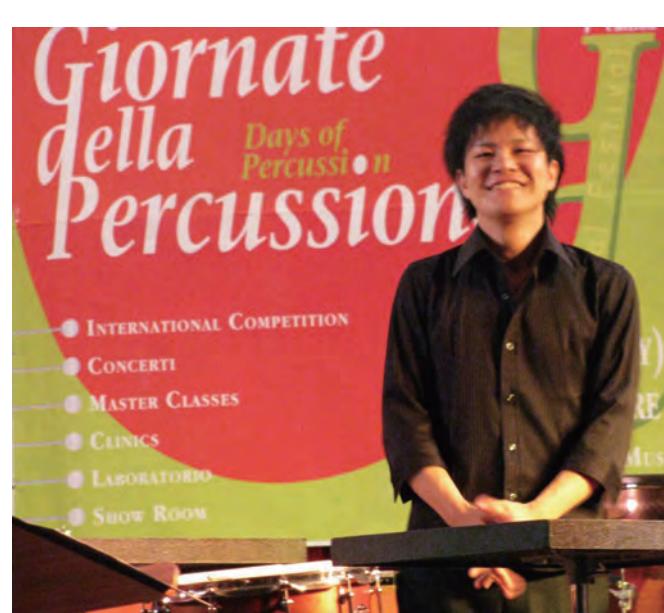
### ◆音楽を始めたきっかけ

小学四年生の時に妹がピアノを始めたので私もついていくと私の方が熱中してしまい、そこから私の音楽人生がスタートしました。中学生からは吹奏楽部でチューバという楽器を担当します。そのまま所高でもチューバを続けるかと思ひきや、金属アルギーの影響で打楽器パートに転身しました。

当時、所高の吹奏楽部は県内有数の強豪校で部員は120人ほど。私は初心者ということもありなかなかレギュラーには選ばれず、3年生の夏にやっとコンクールのステージに立つ事が出来ました。毎日練習を重ねていく中で終わりにしたくないという思いが大きくなり迷わず音大受験を決心しました。

本格的に打楽器の先生に弟子入りして毎週レッスンへ通いました。毎日始発で学校に来て練習。家に帰つて車庫で練習。進歩しない自分に劣等感を感じながらそれでも自分に負けたくなくて狂ったように練習していました。何ヶ月かた

音大に入ると当たり前ですが皆さんとてもお上手。積み重ねてきた努力は確かに力になっていたけれど、3歳からやっている人や両親がプロの演奏家という人達が大勢いてここでも劣等感を感じつづも負けるものかと躍起になつて練習していました。



イタリアコンクールにて

### ◆自分への挑戦

音大に入ると当たり前ですが皆さんとてもお上手。積み重ねてきた努力は確かに力になっていたけれど、3歳からやっている人や両親がプロの演奏家という人達が大勢いてここでも劣等感を感じつづも負けるものかと躍起になつて練習していました。

ちょうど20歳の時に人生最大の転機が訪れます。その頃の私は「日本人がやるクラシック音楽は西洋人の真似事なのではなくいか」という疑問が頭から離れず意を決してイタリアのコンクールを受けることにしました。このコンクールは一次、二次、本選があり、5名の審査員のつ

つたある日のレッスン。先生から初めて、上手くなつたな!と一言。帰りのバスで嬉し涙が頬を伝いました。こうして無事、音大受験を突破する事が出来ました。

### ◆スランプを乗り越える

ける点数が高い順に勝ち残つていきます。出場者は世界各国から35名。その中から本選のステージに立てるのはわずか5名。厳しい状況でしたがなんと一度、二次を通過し本選出場を果たすことが出来ました。まさか本選まで残れるとは思いもしなかつたので前夜は食事も喉を通らずろくに眠れませんでした。演奏を終えていよいよ結果発表。なんと全員の審査員から最高得点を頂き1位を受賞するという夢の様な出来事が起きたのです。

次、二次を通過し本選出場を果たすことが出来ました。まさか本選まで残れるとは思いもしなかつた。ただがむしゃらに練習すればよかったです。しかし今は国際コンクール1位というタイトルを掲げているのだから期待に満ちる演奏をしなければならぬ。そんなプレッシャーに押しつぶされそうでした。帰国すると音大の仲間達がお祝いしてくれる反面、なぜかいふもと違う。そんな気がしました。おそらくそこには嫉妬や羨望が入つてゐるからではないか。友達と言えど演奏家を志すライバルなのだから。そんな事を考へているうちに演奏する事が怖くなつてきました。

でもある時、周りは何も変わつていません。変わつたのは自分がいた。慢心しているのだと気が付きました。タイトルがあるから偉くなつたわけじやない。上手くなつたわけじやない。努力を続けていた自分を認めてくれる人がいた。ただそれだけのこと。ああ、なんて余計な事を考えたんだろう。今まで通りがむしゃらにぶつかって行けばいいのだ。そう思つたらすつと心がいいました。

## ◆再び頂点を目指して

大学卒業して1年たつたあるとき、母親が大病を患いました。たとえ手術が成功したとしても後遺症が残ると言われ絶望を感じていました。母の見舞いに病院に通う日々を送っている内に自分の無力さに苛立ちました。

同じ年くらいの看護師さんが命を救っている。支えている。そして必要とされている。それに比べ自分はどうだろう…。私は今まで一体何のために必死に努力し続けて来たのか?介護の資格を持っていた方がいいかもしれないと思い立ち要項まで取り寄せました。当時アルバイトしていた居酒屋の店主にその事を話したら、ふざけるな!と鬼の形相で怒鳴られました。普段は温厚なのに彼のそんな顔は初めて見ました。「看護師は立派だけど、看護師に出来ないことがお前には出来る。人には人の役割がある。忘れるな!」と一喝されたのです。

その後、韓国で開催される国際コンクールに挑戦しました。今回の参加者は約40人。一次予選通過は10人。そして二次予選通過はたったの2人。私と

## ◆好きな事を仕事にする

中国人の女の子でした。本選はこのコンクールのために新しく作曲されたマリンバ(大きな木琴)とオーケストラのための協奏曲。50分近くある難曲でした。ステージで汗だくになりながら演奏を終えて客席に一礼。すると、とたんに沸き起る拍手の嵐。眩しい照明。この時、僕はこのために生きていたんだと心底感じました。結果は僅かの差で私が優勝させて頂きました。この時、もう迷うのはやめよう。音楽の「しもべ」となって生きていこうと腹をくくりました。因みに母親の手術は無事成功し奇跡的に後遺症も残らず今も元気に生活しています。



ルーマニア国際打楽器フェスティバルにて

とです。」と即答されました。成功しているひとは決して諦めなかつた人。

遠い大きな夢、そして近くで現実的な目標を見据えながら、今自分に何が足りないのか考えて1つ1つコツコツと進んでいくこと。

時には思い悩むこともあるけれど、自分自身で情熱の火を燃やし続けることが何より大切なことです。これからも理想の自分に向かつて慢心することなく。いつまでもがむしやらに突き進んでいきたいと思っております。



講堂お別れコンサートにて

現在、様々なコンサートに出演したりCDのレコーディング、NHKのテレビ番組の収録に参加したりと色々な現場で仕事をさせてもらっています。また、クロアチア、台湾、ルーマニア、フランスなど海外公演も開催しました。

好きな事で食べていく。これは誰もが憧れる事かもしれません。が、仕事となると趣味とは大

きく異なることがあります。それはお金を貰うということです。どんなに調子が悪くとも、お金を貰っている以上、プロの演奏家として1つ1つの音に責任を持つて演奏しなければなりません。間違いは許されないので、常に音楽にとらわれて生活しています。それでも、良い音楽を作り出すためなら全て投げ出しても後悔はしないと思っています。とある有名なドイツ人の演奏家が日本でレクチャーした際に「プロの演奏家になるために必要な事は何ですか?」と質問したところ「辞めないこ

# 二〇一六年三月卒業しました どうぞよろしく



平成二十八年三月卒業

香川 陸

私はこの所沢高校の三年間の中で学んだことが二つあります。それは協調性と自律性です。

春の遠足では、グループごとに分かれて生徒一人ひとりの意見を尊重しながら行動していきました。中学までとは違った自由度の高さに驚きを隠せなかつたことは、今でも覚えています。また、文化祭や体育祭では、人望厚きリーダーの下でここに与えられた仕事を全うしました。その仕事一つひとつをこなすことできりに固い友情が、自身には责任感が次第に芽生えていったのだと思ひます。

改めて思い返してみると、私は行事でも目立った地位に立つことはあまりなく、どちらかと言えば控え目なタイプだったように思います。そんな私を周りの皆は温かく迎えてくれました。生徒それぞれに目標があり、周りはそれを尊重し合い温かく

受け入れます。そして自分は自らの目標に集中し日々取り組んでいきます。体育祭期間中の昂揚感、直後のテスト期間中の緊張感への素早い切り替えは、それを強く象徴しているのだと思います。校訓に掲げる自主自立という言葉は周りのことを考え初めてその言葉の意味を持つようになるのではないでしようか。私が勉学に日々と励むことができたのも周りのよき環境あってのことだと思います。それと同時にいかに友人や先生方に支えられてきたということに気づかされます。

私は春から大学に進学します。その中でも所謂「理系」の道に進んでいくことになります。その道はやはり厳しくかなりの努力と思考力が必要とされるでしょう。しかしこれまで述べてきたように私は所沢高校で沢山のこと学びました。それが私の成長の糧となっていると信じています。私は自分の力を信じたとえ環境が変わったとしても、不斷の努力をするよう努めていきたいと思います。そして三年間の高校生活に誇りを持って将来に向かつて進んでいきたいと思います。

(上智大学 理工学部 進学)



平成二十八年三月卒業

藤井 絵梨

私にとって所沢高校での三年間は、様々な力を付けられた貴重な日々でした。その中でも一番大きな存在だったのは部活動です。

私は迷った末に陸上競技部に入部し、ほぼ毎日練習に励みました。

純粹に走るのが好きとか、楽しいからとか、そういう綺麗な事が理由ではありませんでした。中二の冬に骨折で競技から離れた事で後悔していたからです。どこかで本当に心残りだったのです。初めこそ自分の練習で頭がいっぱいになっていましたが、時が経つにつれて周りにも目を配れるようになります。いつの間にか走るのが楽しくて、正直部活動の為に学校に行く日も多かったです。仲間を応援し合い自己新記録が出たら喜び、切磋琢磨して成長していました。

最高でした。しかし、私自身は一度も高校で自己新記録を出せませ

んでした。焦りと情けなさがこみあげていました。「またこんな終わり方が……」という想いでいた。引退の日のリレーがあるまでは。

個人では情けない結果で終わりましたが県大会のリレーでなんと!チーム新記録が出ました。うれしくて涙が出ました。やはりこの三年間を振り返って周りの人の影響力や仲間の応援は大きかったと思います。

長くなりましたが私は例え、きっかけが何であっても、また結果が出なくとも諦めないで続ける忍耐が大切だと改めて認識できました。また、所高は良い意味でも悪い意味でも雰囲気に流されやすいと思います。是非、周りの仲間と最高の雰囲気作りをしてほしいです。高校生活は一度と戻ってきません。周りの人への感謝を忘れずに後悔のない時間を過ごしてください。

私がこれから学ぶ健康や福祉について、とにかく体力と忍耐力が必要になってくると思います。もちろん今後も私はスポーツを続け体力を維持していきたいと考えています。高校での三年間を糧に精進していくのです。

(早稲田大学 人間科学部 進学)

## 平成二十七年度 部活動の記録

(主なもの)

### ソフトテニス部(男子)

8月9日 四市高校生大会団体戦 優勝  
9月14日 新人戦西部地区個人の部 ベスト8  
11月7日 新人戦県大会団体の部2回戦敗退  
11月13日 新人戦県大会個人の部 ベスト8

### サッカー部

秋季西部支部大会ブロック1位通過  
陸上部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

7月 国体一次西部地区予選会 多数入賞  
9月 新人戦西部地区大会 多数入賞

### 化学部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

秋季西部支部大会個人の部 ベスト8

### 生物学部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

秋季西部支部大会個人の部 ベスト8

### 山岳部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

### 生物部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

### ソフトボール部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

### バスケットボール部(女子)

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

### 山岳部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

### 地学部

男子100m入賞・男子棒高跳優勝  
および準優勝

5月24日 日本地球惑星科学連合2015年  
大会高校生によるポスター発表『霜柱の成長  
に関する実験的研究』にて研究奨励賞

### 弓道部

所沢市民大会初級の部 優勝  
インターハイ団体男子2次予選敗退

### サッカー部(女子)

学校総合体育大会(高校サッカー女子の部)  
予選リーグ1勝1敗1分リーグ2位

決勝トーナメント1回戦敗退(県ベスト16)  
埼玉県選手権大会

予選リーグ2勝1敗リーグ2位  
決勝トーナメント1回戦敗退(県ベスト18)

写真部 第34回埼玉県高校写真展自由部門 優良賞  
作品名『飛翔』 作者大參恭祐(2年)

ギター部 8月23日 全日本小中学校高等学校ギター  
フェスティバル 合奏部門 金賞・重奏部門 金賞  
1月13日「全国高等学校総合文化祭 器楽・  
管弦楽専門部」埼玉県代表選考会 推薦

### 剣道部

4月18日 西部支部大会男子団体3位

6月14日 インターハイ県予選男子4回戦  
合奏部門 金賞・重奏部門 金賞

10月10日 西部支部新人大会男子ベスト8  
管弦楽専門部 埼玉県代表選考会 推薦

11月23日 県新人戦大会男子団体ベスト32

春季西部支部大会5位 関東県予選会出場

学校総合体育大会 県大会出場  
技術講習会(一年生大会) 西部地区3位

スプリングカップ西東京大会 優勝  
男子バレー部

8月23日 第39回学芸書道全国展  
優秀団体賞、理事長賞(2名)  
特選 奨励賞(9名)

第40回県民総合体育大会(西部支部選抜選手)第三位

1月31日 第68回埼玉県書道展覧会  
優良賞(2名)  
(8名)

## 弓道部「半世紀の弓道部」



弓道部指導者 片居木 栄一

はじめに、川越高等学校弓道部で活躍し、副将同士で結婚された梶田隆章先生が、昨年ノーベル物理学者を受賞されたことは同好の士として至上の喜びであります。

さて、本校弓道部は創立半世紀に至り、その間活動をともにしてきましたが、八十五歳となり引退いたしました。ここに関係された方々に心底から感謝申し上げます。

弓道部活は、指導を受けながら、一人で引けるようになるのに約四ヶ月ほどかかります。礼や体配、射技の基本を身につけ、矢数をかけ次第に上達していきます。主な活動の目的は年間の六試合で競うことです。

主な成果は、昭和四十六年高校総体女子団体決勝トーナメント進出

(林美也子、関根俊子、平塚千秋、小沢佐代子、土屋恵子)、同年関東大会女子団体優勝、昭和五十四年高校総体県予選男子団体準優勝、昭和五十九年関東大会女子個人五位大山佳代、平成十八年国体候補選手少年女子芳賀麻美、関東ブロック大会出

場をはじめ、多数の入賞があります。

特筆したいのは、NHK教育テレビのテレビスポーツ教室に、昭和五

十一年(五十三年の三年間出演し、

五十二年は、本校道場で口ヶをした

ことが強く印象に残っています。



平成十七年三月、第二十三回全国高等学校弓道選抜大会に出場した芳賀麻美さん(手前)、後が片居木先生

弓道は「礼に始まり礼に終わる」ものですから、まず礼を身につけて射技の基本を洗練することに精進します。このような活動を約二年三ヶ月続け、様々な感想を抱き、初段、二段になって卒業していきます。

「礼や体配を身につけたら、自然と精神が落ち着き、身も心もすつきりして集中力が高まる感じがした。掛け替えのないよい友達ができた。和が大切。簡単そうに見えるが、やつてみるとむずかしい。奥が深い。いつも違う射が出るから飽きないで面白い。試合後の反省が為になつた魅力があつて夢中になる。弓道で得たものを日常生活に生かしたい。」等々です。今後のさらなる発展を願っています。

## 五〇年後の同窓会

昭和四十一年三月卒業

三年六組幹事 毛利 真和

1966年卒業、五〇年が経過しました。旧クラスメイトが出会い、語り合えればとバスツアーコンク会を実施しました。一五年十月三日、都内を見学。東京スカイツリー(ソラマチ見学)→浅草寺で見学と寿司ランチ→お台場海浜公園→水上バス(ベイブリッジ・東京タワー・湾内見学)日の出桟橋→帰路へ。

バスの中では、高校三年生・体育祭のクラス仮装行列のスナップ写真を回覧し、懐かしい友の顔と自分を探して、笑いの渦が生まれていました。

所新聞・卒業版には、担任・副担任はじめ、お世話になつた先生たちの温かい言葉が載っていました。卒業生の将来を後押ししてくれる教えを再確認できました。

今回参加された十七名のクラスメイトは、それぞれの新しい思い出を作ることができたでしょう。『次回の同窓会で、また会いましょう』と、解散しました。

その後、記念写真を送付、数名から『ありがとう』のお礼葉書が届きました。最後にクラスメイトの益々のご健勝をお祈り申し上げます。



東京ベイブリッジを背景に記念写真

前回の同窓会の後、満更でもない気持ちで気軽に幹事を引き受けた。クラス幹事さんを各々2~3名お願いし、快諾してもらえ総勢17名の幹事会ができた、心強い。同窓会当日までに数回のミーティングを行つたが、のちのち思うにこのミーティングがミニ同窓会のようで、毎回楽しみであつた。

現代にはインターネットというツールがあり、大勢と同時に連絡をとるのに便利である。SNSを駆使することも考えたが、みんながみんなスマホ持ちではないだろう、だいいち僕自身がガラケーだ、メールで充分。あと同窓会専用ホームページを作つて、お知らせと意見交換の場を設けた。

期日と会場を決めなくては始まらない、ここは僕の独断です。独断だからすんなり決まつた。あとは幹事会専用ホームページの仕事の半分以上済んでようなもので、早くも気が楽になつた。あとは出欠の往復ハガキを送るだけ。出たい人出られない人は出席だし、出たくない人出れない人は欠席というだけのことではあるが、全員出席

はとうてい叶わないとしても、なるべく多くの人に出席してもらいたいと思うのは幹事のサガリのものか。だから調整してもらいたい易いように早めに案内し方を良いと考え、半年以上も前に往復ハガキを送付したのであるが、「早過ぎー」「返信しあたか忘れる」中には同窓会開催のものを忘れる人もという意見が多かつた。「そりやそうだ」と素直に反省。

学年同窓会、100名超が集いそれも何十年ぶりの顔もある、ただ会つて「おー」とか「やー」とか「キャー」と言つてただ嬉しくて楽しくて、2時間くらいすぐ経つてしまう。だから会に特別な企画はいらない、要らないが盛り込みたくなるのも幹事のサガカ。

みんなに評判の良かつたことがひとつ、当日全員に付けた名札に卒業アルバムの顔写真を入れたこと、記念撮影が戻り会話がはずんだに幹事のサガカ。

42年の時の流れは興味深い、一人ひとりの顔を見ながらの名札制作は意外に楽しい作業

同窓会、五年ぶりの今回はやはりのよい還暦記念、まずは『60祭』と命名。

同窓会が終わって  
昭和四十九年春卒  
井川 裕美

# 同窓会 報告

2016(平成28)年7月

(9)

所沢高校同窓会報(第31号)

これから先、何回同窓会を開けるか、出席できるかわからないが、ご招待した恩師と同級生の見分けがつかなくなとも、何を置いても出席したいに違いない。そのためにも健康の自己管理はしっかりとしていきたいものである。僕たちの代の次回は「63祭」「65祭」? 今から楽しみだ、次回の幹事さん、お手伝いします。



昭和五十九年三月卒業  
曾根智

平成27年9月26日の土曜日

に、池袋の芸術劇場にある「アル・テアトロ」というイタリアン・レストランを貸し切って、昭和五十九年卒業生による同窓会を行いました。

この同窓会は、卒業後32年、50歳の節目の年に開催しようとした半年以上をかけて企画されたものでした。

当日は、遠くはニューヨークから、男女ともに78名、合計156名の参加がありました。

これから先、何回同窓会を開けるか、出席できるかわからないが、ご招待した恩師と同級生の見分けがつかなくなとも、何を置いても出席したいに違いない。そのためにも健康の自己管理はしっかりとしていきたいものである。僕たちの代の次回は「63祭」「65祭」? 今から楽しみだ、次回の幹事さん、お手伝いします。



校歌を歌つたり、写真撮影をしたり、と盛りだくさんの企画で、あつという間に時間が過ぎていきました。

「時間がもつとあつたらよかつたのに」「また逢いましょう」のかけ声とともに、名残惜しく散会しました。

3年間、同じ場所で、同じ時間を共有した仲間はかけがいのないものであると、あらためて実感しました。また、それぞれの近況を聞けば、色々な場所で活躍していることもわかりました。「自由」な校風のもと育った僕たちも、年を取つて、あらためてこの高校3年間が僕たちの「宝物」であったと感謝しています。

クラスごとの名簿と記念のDVDも作製しました。

今後も、同窓会を色々な形で催していくことを考えています。奮つての参加をお待ちしております。また、連絡がつかない方が、何名かおられます。心当たりある方は、同窓会までご連絡ください。

## 平成28年度入試結果 大学・短大合格者数(平成27年度卒業生・既卒生)

	大学名	合 格 数			入 学 数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
国 公 立 大 学	帯広畜産大	1		1	1		1
	群馬大	1	1	2	1	1	2
	埼玉大	4		4	4		4
	電気通信大	1		1	1		1
	東京学芸大	3		3	3		3
	東京農工大		1	1		1	1
	山梨大		1	1		1	1
	計	10	3	13	10	3	13
	平成27年度入試	8	5	13	7	4	11

	大学名	合 格 数			入 学 数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
私 立 大 学	跡見学園女子大	8		8	1		1
	埼玉医大	2		2	2		2
	埼玉工大	1		1			
	城西大	6	1	7	4	1	5
	駿河台大	2	1	3	1	1	2
	東京国際大	5		5			
	獨協大	3	4	7	2	1	3
	日本工大	2		2	1		1
	文教大		1	1			
	文京学院大	4		4	1		1
	目白大	8	1	9			
	十文字学園女大	4		4	2		2
	西武文理大	2		2			
	共栄大	2		2			
	武蔵野学院大	1		1	1		1
	日本医療科学大	1		1	1		1
	淑徳大	2		2			
	千葉工大		1	1			
	帝京平成大	1		1	1		1
	青山学院大	5		5	1		1
	垂細亞大	7	2	9	2		2
	桜美林大	1		1	1		1
	大妻女子大	3		3			
	学習院大	12	1	13	7		7
	北里大	1	1	2		1	1
	共立女子大	5	3	8	2	1	3
	杏林大	2		2	2		2
	慶應大	1		1	1		1
	恵泉女学園大	1		1			
	工学院大	6	1	7	3		3
	国学院大	3	1	4	1		1
	国土館大	6		6	4		4
	駒澤大	8		8	4		4
	実践女子大	16		16	5		5
	芝浦工大	14	2	16	5		5
	順天堂大		1	1			
	上智大	2		2	1		1
	昭和女子大	12	2	14	4	1	5
	女子栄養大	3		3	3		3
	成蹊大	17	1	18	7		7
	成城大	5		5	2		2
	清泉女子大	2		2	1		1
	専修大	4	1	5			
	大東文化大	14	2	16	3		3
	拓殖大	5		5	4		4
	玉川大	1	1	2		1	1
	多摩美大	4		4			
	中央大	15	3	18	6	2	8
	津田塾大	2		2	1		1
	帝京大	15		15	7		7
	東海大	3		3	1		1
	東京家政大	15		15	10		10
	東京経大	15	2	17	8		8
	東京工科大	6		6	5		5
	東京慈惠会医大		1	1			
	東京女子大	2		2	1		1

	大学名	合 格 数			入 学 数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
私 立 大 学	東京造形大	2		2	1		1
	東京電機大	8	3	11	2	1	3
	東京農大	11		11	6		6
	東京薬大	1		1	1		1
	東京理大	9	3	12	7	2	9
	東洋大	55	9	64	21	2	23
	二松学舎大	2		2	1		1
	日本大	36	9	45	17	3	2
	日本社会事業大	1		1	1		1
	日本獣医生命大	1		1	1		1
	日本女子大	4	1	5	1	1	2
	日赤看護大		1	1			
	日本体育大	1		1	1		1
	文化学園大	2		2	2		2
	法政大	16	4	20	10		10
	武蔵大	31	6	37	17	3	20
	東京都市大	4		4	1		1
	武蔵野大	3	2	5	3	1	4
	武蔵野美大	5		5	3		3
	明治大	12	2	14	5	1	6
	明治学院大	2		2	1		1
	明治薬大	3	1	4	3	1	4
	明星大	5		5	1		1
	立教大	13	1	14	8	1	9
	立正大	1		1			
	早稲田大	5	1	6	3	1	4
	学習院女子大	4		4	2		2
	東京医療保健大	2		2	1		1
	東京聖栄大	2		2			
	白梅学園大	1		1			
	デジハリ大	1		1	1		1
	鎌倉女子大	1		1	1		1
	東京工芸大	1		1			
	フェリス女大	1		1			
	帝京科学大	1	1	2	1		1
	山梨学院大		1	1		1	1
	計	534	79	613	242	27	269
	平成27年度入試	599	101	700	268	24	292

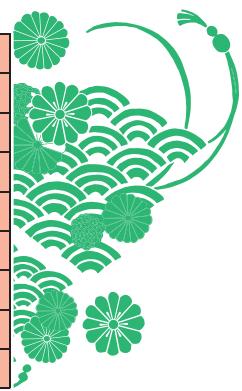
	短大名	合 格 数			入 学 数		
		現役	既卒	合計	現役	既卒	合計
短 期 大 学	秋草学園短	1		1	1		1
	埼玉医大短	1		1			
	青山学院女短	5		5	2		2
	白梅学園短	1		1			
	東京家政大短大	1		1	1		1
	東京農大短大部	3		3	2		2
	文化園大短大	1		1	1		1
	立教女学院短	5		5	2		2
	計	18		18	9		9
	平成27年度入試	9	2	11	7	2	9

	種 別	平成28年3月卒			平成27年3月卒		
		4年制大学	短期大学	専門学校(各種学校含む)	その他の進学(留学等)	就職(公務員含む)	未定(浪人含む)
	4年制大学	253				275	
	短期大学	9				7	
	専門学校(各種学校含む)	32				30	
	その他の進学(留学等)	0				3	
	就職(公務員含む)	3				5	
	未定(浪人含む)	65				43	
	センター出願者数	294				294	
	卒業生数	362				361	
	現役進学率	81%				86%	

入試方法	平成28年3月卒業生	大 学	短 大	専門学校
	一般入試	178	3	18
	公募推薦・AO	23	4	12
	指定校推薦	44	2	1
	合 計	245	9	31



## 平成28年3月卒業 同窓会クラス幹事



1組	水村 篤司	南羽 珠実
2組	落合 謙	大場 千聰
3組	中村 優介	藤井 絵梨
4組	佐藤 孝輝	中村 月美
5組	岩渕 隼人	井上 愛唯
6組	大杉 廣介	千葉 桃花
7組	藤田 俊輝	福原 風希
8組	木島 涼太	岡本 桃香
9組	嶋田 空	遠藤 初夏

## 2016年度(平成28年度) 同窓会役員

役職		卒年	役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
顧問	肥沼 金治	30	監事	木村 一男	44	常任理事	大館 隆行	46
顧問	島田 孝男	33	監事	木岡 村能成	47	常任幹事	井光勝也	50
顧問	当麻 実	36	常任幹事	小沢 郁夫	29	常任幹事	山下田 健也	53
会長	松本 明信	38	常任幹事	小杉 正司	32	常任幹事	原桑 大介	54
副会長	岩岡 民枝	29	常任幹事	秋谷 穂利	36	常任幹事	石元 健俊	55
副会長	森田 貢	32	常任幹事	木原 勝江	36	常任幹事	大榎 力	59
副会長	木下 武文	37	常任幹事	上原 勝次	37	常任幹事	大津 泰崇	60
副会長	西久保 正一	41	常任幹事	大河原 勝造	39	常任幹事	山村 崇	H2
副会長	本橋 栄三	43	常任幹事	藤幸 造	40	常任幹事	大村 泰	H6
副会長	三上 恭央	61	常任幹事	古谷 真一	43	校長	関口 恭裕	
副会長	秋田 孝	62	常任幹事	富澤 行雄	44	事務局	正田 浩司	
会計	石井 里子	37	常任幹事	畠 畑喜久男	45	事務局	森 みのり	
会計	滝島 孝一郎	43	常任幹事	大野 由喜子	46			

### 2015年度(平成27年度) 同窓会決算報告書

**1. 収入の部**

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
(1) 会費	4,356,000	4,344,000	12,000	入会金および終身会費
(2) 雑収入	20,000	5,451	14,549	CD・校章バッジ・記念誌売上
(3) 繰越金	7,841,436	7,841,436	0	利息
計	12,217,436	12,190,887	26,549	平成26年度より繰り越し

**2. 支出の部**

項目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	残額	摘要
(1) 事業費	4,000,000	0	4,000,000	3,714,057	285,943	同窓会報印刷 同窓会報発送 所高祭関係
(2) 会議費	100,000	0	100,000	12,331	87,669	卒業記念品代 卒業アルバム購入
(3) 事務費	200,000	0	200,000	8,664	191,336	在校生支援プログラム謝礼 部活動助成金
(4) 諸費	200,000	0	200,000	5,032	194,968	市内旅費 電報 書籍
(5) 会館整備費	400,000	0	400,000	130,086	269,914	希望の森清掃代
(6) 予備費	7,317,436	0	7,317,436	0	7,317,436	
計	12,217,436	0	12,217,436	3,870,170	8,347,266	

平成27年度収支 収入決算額 4,349,451 円  
支出決算額 3,870,170 円  
残額 479,281 円

**3. 積立金**

2,000,000円 (埼玉りそな銀行所沢支店)

平成27年度決算報告書及び証拠書類を監査した結果、相違ないことを証明いたします。  
平成28年4月25日 監事 木村 一男 監事 岡村 能成

上記の通り報告いたします。

平成28年5月7日 埼玉県立所沢高等学校同窓会長 松本 明信

### 2016年度(平成28年度) 同窓会予算書

**1. 収入の部**

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
(1) 会費	4,356,000	4,356,000	0	平成28年度 3学年 363名
(2) 雑収入	20,000	20,000	0	校章バッジ・記念誌等売上、利息
(3) 繰越	8,320,717	7,841,436	479,281	平成27年度より繰越
計	12,696,717	12,217,436	479,281	

**2. 支出の部**

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
(1) 事業費	4,000,000	4,000,000	0	同窓会報印刷・発送費、卒業記念品 ホームページ維持管理、簡易名簿発行 在校生支援(講演会謝礼、部活動補助)
(2) 会議費	100,000	100,000	0	役員会・総会基質
(3) 事務費	200,000	200,000	0	郵便・ハガキ・郵送代
(4) 諸費	200,000	200,000	0	市内旅費
(5) 会館整備費	400,000	400,000	0	慶弔費その他 会館清掃費 壁はりかえ カーテンクリーニング
(6) 予備費	7,796,717	7,317,436	479,281	
計	12,696,717	12,217,436	479,281	

**3. 積立金**

2,000,000円 (埼玉りそな銀行所沢支店)

平成28年5月7日 埼玉県立所沢高等学校同窓会

## 所沢高校同窓会 ホームページ

<http://www.tokoko-dosokai.jp>

- 主な内容は
  - ・歴史写真館
  - ・校歌、応援歌
  - ・同窓会報バックナンバー
  - ・著名な同窓生
  - ・会員交流のページ
  - ・クラス会の連絡、報告等

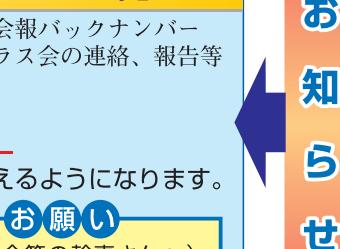
◇会報バックナンバーは、次のID・パスワードを入力のうえ、開いて下さい。

ID : tokoko パスワード : midorino

会員交流のホームページは、ホームページから個々に登録することで、使えるようになります。

HP開設の目的は、会員の皆様への情報提供ですが、それ以外にも、現役の所高生やこれから所高を受験しようと考えている中学生やその保護者の方への情報発信にも役立てば、と考えています。

どうぞ、ご協力を願いいたします。



## INFORMATION

- 『所沢高校百周年記念誌』、写真冊子『所沢高校百年の歩み』、校歌・応援歌・商業学校学生歌・女学校朝会歌を収録したCDをご希望の方は所沢高内の同窓会事務局までご連絡ください。
- クラス会・同期会の幹事さんへ（お願い）  
同窓会の様子を同窓会報の記事としてお寄せいただければ幸いです。ご協力を願いいたします。
- 同窓会報で取り上げて欲しい話題等ありましたらご一報ください。また、活躍なさっている同窓生の方をご存知でしたらお知らせください。

● 住所変更等の場合は、ハガキなどの文書でご連絡ください。その際、記入欄は必ずご記入ください。未記入の場合はお受けできない場合があります。なお、ハガキでの連絡で、個人情報を隠したい方は、お手数ですがハガキを封筒に入れご郵送ください。

● 同窓会名簿の取り扱いにはご注意をお願いいたします。名簿発行は、同窓会名簿に掲載されている同窓生の方の申請のみの受け付けとなります。発行のために身分証明書ご持参の上2度ほど所沢高にご来校いただることになります。個人情報保護のため煩雑な手続きとなっておりますが、ご理解、ご協力を願いいたします。手続きの詳細につきましては、事務局までお問い合わせください。

後援会事業は以下の3つの事業を通して、本校の教育の発展・振興に大きく役立っています。  
1 施設・設備の拡充援助  
2 教育活動への助成  
3 各行事への助成  
賛助会員は本会の趣旨に賛同いただけ方で、「賛助会員の期間は原則として1年とし、翌年度の会費納入をもつて更新する」(後援会会則第4条2項)ことになっています。  
会費の納入については以下の様にお願い致します。  
1 口数 1口 2,000円  
2 振り込み 郵便振り込みで、  
口座番号 0120161  
3 加入者名 埼玉県立所沢高等学校  
期間 平成29年3月末日  
53754

## 同窓会総会・活動報告

### 編集後記

今年で創立118年目を迎え、同窓会報も31号となりました。昨年度より所高祭に同窓会コーナーが設けられ、在校生支援プログラムとしてお二人の同窓生に魅力ある映画制作や打楽器演奏などについて、上映演奏も含めお話しをしていただきました。それらの取り組みを記事としてお寄せいただき、本号ができあがりました。在校生に伝えたいことがある同窓生の方、あるいはこんな方がいらっしゃるという推薦など、同窓会まで情報をお寄せ下さい。同窓会報を読み返してみると所高の歴史を感じることができます。バックナンバーは同窓会のホームページでも閲覧できますのでご覧ください。

## 所沢高等学校後援会 賛助会員加入のお願い

後援会事業は以下の3つの事業を通して、本校の教育の発展・振興に大きく役立っています。

- 1 施設・設備の拡充援助
- 2 教育活動への助成
- 3 各行事への助成

## 講堂とのお別れ

昭和二十八年(1953年)3月に落成して63年たった思い出深い講堂が取り壊されました。当初は入学式や卒業式などをおこなう場所として利用され、昨年まではバドミントン部や卓球部などの運動部、吹奏楽部やフォーラーク部などの練習、発表の場所、体育の授業などでも活用されました。が、よる年月はいかんともしがたく、耐震性の問題から解体ということになりました。3月には「講堂お別れコンサート」が吹奏楽部、音楽部、弦楽部の現役生と同窓生の新野さんのコラボでおこなわれました。十年ぶりに講堂に入った新野さんが「講堂には講堂特有の匂いがある」と感想を述べられていたのが印象的でした。

駒井光明氏(昭和50年卒)	会報題字
印刷有限会社須賀印刷	毎日展審査会員
049(222)1989	